

合同会社 渥美どろんこ村 愛知県田原市

スタディツアー (校外学習・修学旅行) のご提案



渥美どろんこ村とは

私たちは農業を通じて、

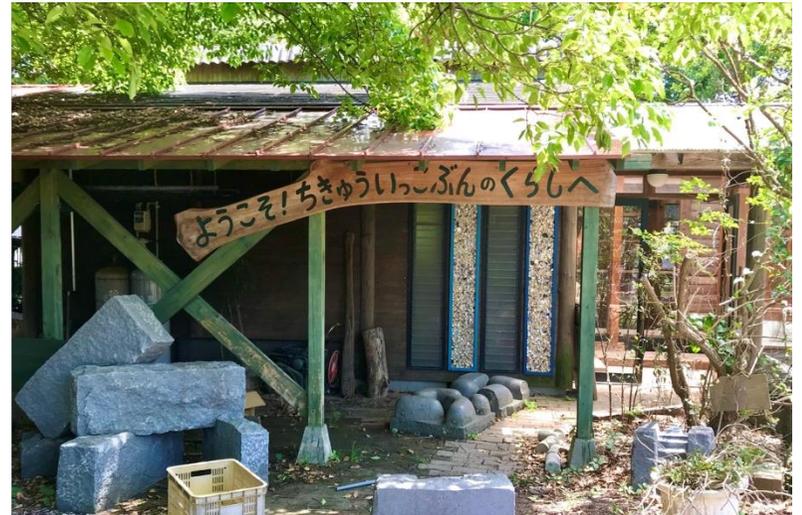
「地球1個分の暮らし」の価値観を身につけ実践する人を育成します。

牛車で田畑に行き、昼はみんなで煮炊きをする。
それは、60年くらい前までここ渥美半島で普通に見られた、自然とともに働き、地域のつながりの中で生きる暮らしでした。
その後、周りの農業は大規模生産へと移行していききましたが、
どう社会と向き合うのか考え抜いた結果、私はこの地域で一人、農薬や化学肥料を使わない、循環型の農業を貫きました。

共生する社会を作ろうとする意識を持った人を増やしたい。
そんな思いの中、農業の可能性に挑戦するため、
1997年に農業体験施設「渥美どろんこ村」を立ち上げました。

体験に来た学生たちと共に、かつてからの夢だったファームステイも実現しました。それ以来、育てて食べる暮らしの現場には小学生を中心に中高生、大学生、社会人、家族連れなど、のべ一万人以上の人たちが訪れています。
単なる農業体験にとどまらず、日々自分の意識を見つめ自分の行動を主体的に選択する、教育の場となりました。

二〇二〇年、渥美どろんこ村は合同会社として再スタートしました。
育てて食べる暮らしから、自分自身を客観的に見つめ直すこと、そして持続可能な社会の実現を担う次世代を増やすこと。
私たちは、農業を通じて、共生する未来を目指します。



渥美どろんこ村の2つの事業

▶ 農業



有機農業での野菜生産

地域の畜産で発生する鶏糞や牛糞を土づくりに使用して有機農業を行っています。有機JAS認証も取得しています。主に冬場にキャベツ、ブロッコリーを生産・出荷、夏場は自給用や体験用を少量多品目で育てています。



稲作

有機栽培でうるち米のほか、黒米や餅米も育てています。



養豚

畑の規格外の野菜や産業廃棄物、魚屋のアラなどを餌に利用して育てています。



養鶏

採卵用の鶏を平飼いで飼育しています。卵でシフォンケーキも生産しています。

▶ 体験教育



ファームステイ

小中学生を対象にした2泊3日のプログラム。「育てて食べる暮らし」の体験です。



いのちのワークショップ

鶏の解体など、普段何気なく食べているもののいのちを見つめる機会を提供します。



田んぼと畑の学校

週末に年間を通して開催。親子で継続的に参加してもらう体験です。



今回のご提案

スタディツアー

学校の校外学習として様々な体験ができます。詳しくは次ページから説明いたします。

「スタディツアー」とは

小学生～高校生まで、
学年や科目、授業内容、学習の目的などに応じ、
4～5ページに記載の「学びのメニュー」を自由に組み合わせて
オリジナルのスタディツアーを実施可能です。

※時期や滞在時間により実施可能なプログラムは異なります。お気軽にご相談ください。

生きることの原点である「食」が生まれる農の現場で、
知識だけではなく、実感を伴っていのちの循環や共生する社会について学び、
自らが未来を作る一員となる方法を考えます。



「学びのメニュー」は
次の4～5ページを
ご参照ください。

▶ **SDGs教育、探究学習、自然体験、社会科見学、
キャリア教育**まであらゆるニーズに対応可能

▶ **20年以上**にわたる体験教育の実績から培われた
質の高い内容

▶ 講師はファームステイ等で日常的に子どもたち
への働きかけを行っているスタッフ

実績

- ・愛知大学地域政策学部
- ・椋山女学院大学
- ・瀬戸市立水野中学校
- ・田原市立赤羽根中学校
- ・田原市立東部小学校 他

関係するテーマ

持続可能性、SDGs、
フードロス、生物多様性、
地球2.9個分の生活、
循環型社会、ESG、
日本の文化風土...

スタディツアーで実施可能な学びのメニュー①

(A) お茶碗一杯のお米

所要時間：40分

〈目的〉

- ・ 普段食べているお米ができる過程を学ぶ。
- ・ お茶碗一杯のお米を作るのに必要なエネルギーを実感する。

〈内容〉

- ・ お茶碗一杯分のお米を、手作業で脱穀・粳摺り・精米する。
- ・ 千歯こきや足踏み脱穀機などの昔の道具を使ってみる。



(B) 豚のごはんづくり

所要時間：30分

〈目的〉

- ・ 大量に食べ物が廃棄される社会のあり方を考える。
- ・ 自分が生きるためにいのちをいただいていることを感じる。

〈内容〉

- ・ 地元の魚屋のアラ、産業廃棄物のお菓子や酒粕など「社会の余り物」を使って豚のえさをつくる。
- ・ 豚にえさをやり、実際に触れ合う。



(C) うんち工房

所要時間：30分

〈目的〉

- ・ 地域の畜産業で発生した動物性堆肥や野菜くずを利用した土づくりを学ぶ。
- ・ 土壌の分解によってエネルギーが循環していることを感じる。

〈内容〉

- ・ 発酵して熱を持っている鶏糞を観察したり、畑にまいて耕したりする。
- ・ 土が育てた野菜を収穫する。



(D) 46億年の歴史ロード

所要時間：20分

〈目的〉

- ・ 地球46億年の歴史を10m = 1億年で表現した歴史ロードを歩き、地球の歴史の長さを実感する。
- ・ 「時間・空間・エネルギー」の視点で物事を捉える。

〈内容〉

- ・ 歴史ロードを歩きながら、生命の営みや、地球の時間の長さ、人類の歴史の短さを学ぶ。



スタディツアーで実施可能な学びのメニュー②

(E) わらだきご飯づくり

所要時間：60分

〈内容〉
羽釜を使って稲藁でお米を炊く。
稲作の副産物を使ってお米を料理することで資源を無駄なく利用することを実感する。



(F) 竹の食器づくり

所要時間：45分

〈内容〉
里山から竹を切り出し、のこぎりなどを使って自分たちが使う食器を作る。創意工夫して楽しむ。



(G) 田植え・稲刈り

所要時間：60分

〈内容〉
普段食べているお米を作る過程を学び、体験する。田植えでは、代かきの後の田んぼの感触を味わいながら手植えをする。



(H) 鶏・ひよこのえさやり

所要時間：30分

〈内容〉
鶏やひよここと触れ合い、いのちを実感する。
自分たちで虫を捕まえ、鶏やひよこにあげる。



(I) 体験レストラン

所要時間：60分

〈内容〉
どろんこ村の豚肉や野菜などを使って料理し、いのちをいただくことでいのちの循環を考える。
昼食等に対応可能。



「追体験」の時間

どろんこ村では、体験を体験のままで終わらせずにより客観的に捉え直すことを大切にしています。 実体験を思い起こし、「時間・空間・エネルギー」の視点から、再びなぞるように考えます。これは、スタディツアーでの実体験と学校での学びや知識を結びつけ、社会問題をより自分自身に引きつけて考える契機となります。

モデルスケジュール

到着時間・出発時間のご都合に合わせて、スタディツアーのスケジュールを組み立てることが可能です。
半日の場合、2日間の場合など、お気軽にご希望をお聞かせください。

【例1】滞在時間5時間（昼食付き）、6クラスの場合

	1組	2組	3組	4組	5組	6組
9:30	開村式（オリエンテーション）					
9:40	(B) 豚のごはんづくり	(A) お茶碗一杯のお米	(C) うんち工房			
10:20	(A) お茶碗一杯のお米	(C) うんち工房	(B) 豚のごはんづくり			
11:00	(C) うんち工房	(B) 豚のごはんづくり	(A) お茶碗一杯のお米			
11:40	(E) わらだきご飯づくり (F) 竹の食器づくり					
12:30	昼食					
13:00	「追体験」の時間					
13:15	閉村式（おわりの会）					

【例2】滞在時間3時間（昼食なし）、6クラスの場合

	1組	2組	3組	4組	5組	6組
9:30	開村式（オリエンテーション）					
9:45	(A) お茶碗一杯のお米	(D) 46億年の歴史ロード	(B) 豚のごはんづくり			
10:30	(B) 豚のごはんづくり	(A) お茶碗一杯のお米	(D) 46億年の歴史ロード			
11:15	(D) 46億年の歴史ロード	(B) 豚のごはんづくり	(A) お茶碗一杯のお米			
12:00	「追体験」の時間					
12:15	閉村式（おわりの会）					

※ 到着時間、出発時間は調整可能です

※ 1クラス40名以下の想定です

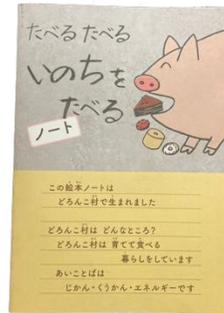
事前学習・振り返り

より学びを深めるために、事前学習や振り返りに使用できる教材やアンケートを用意しています。



『たべるたべるいのちをたべる』

いのちの循環を見つめ自分の生き方を考えることをテーマにした、どろんこ村作成の絵本。



絵本ノート

どろんこ村の絵本をベースに作成した、いのちの循環と自分の生き方についてより深く考えるための教材。

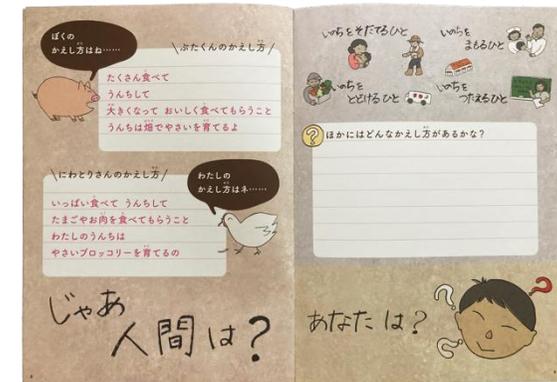
事前学習・アンケート

授業のテーマに応じて、農業や資源の循環、環境問題などを学び、考えることができます。アンケートでは、児童生徒の興味を調査し、その結果に応じて体験内容を準備します。

振り返りアンケート

体験を通じた自分の意識の変化を振り返り、見つめ直すことを促すアンケートです。

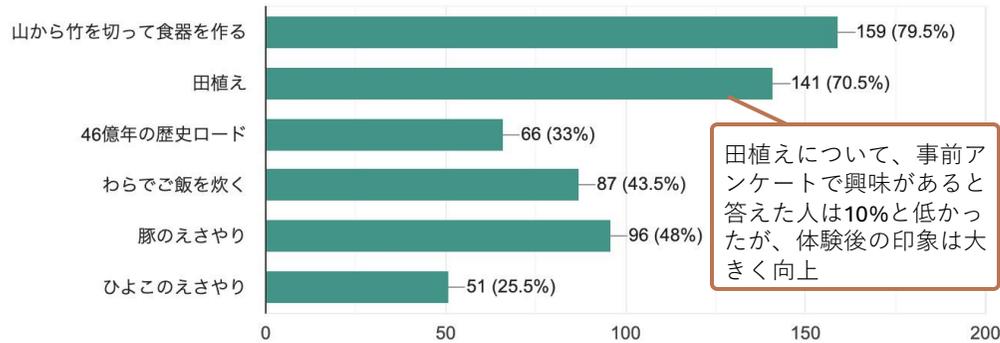
▼絵本ノートの中身（一部）



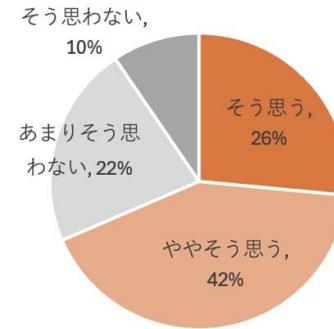
スタディツアー参加者のアンケート①

2025年6月に中学2年生220人（6クラス）に対して実施したスタディツアーの体験後アンケートの一部抜粋です。

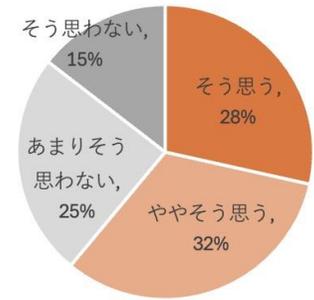
Q. だろんこ村の体験で、特に印象に残っている活動を3つ選択してください。



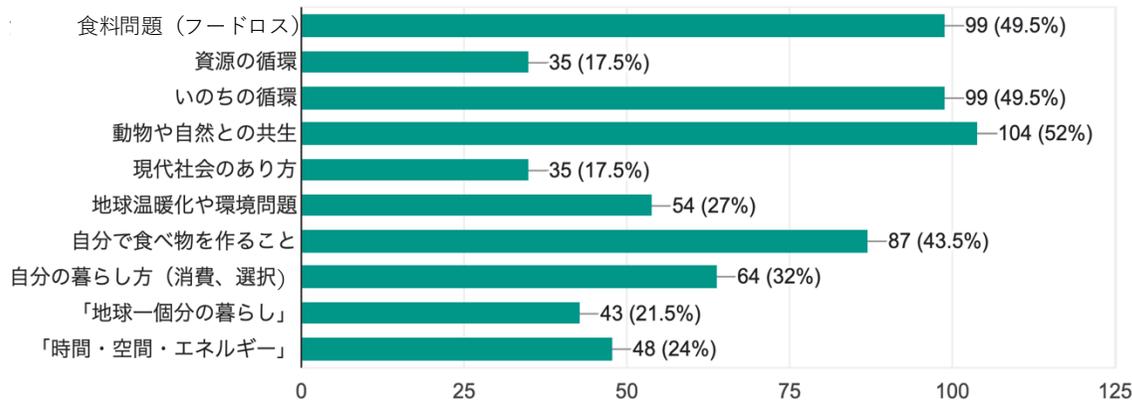
農の暮らしの体験を通して地球の未来のことについて考えた



このような体験の機会があればまた参加してみたい



Q. だろんこ村の体験で、特に深く考えたテーマを全て選択してください。



スタディツアー参加者のアンケート②

Q. 「どろんこ村の体験を通じて、感じたこと、考えたことを自由に書いてください」 (回答一部抜粋)

・豚の餌やりで、大量廃棄の食べ物を見た時に、私たち人間は見ていないところでもゴミ、**まだ使える、食べられるものを捨てているのだと気づいて、考えていけないといけないと思った。**

・体験を通じて、自分たちが、**同じ命を食べていることを再認識して、そのことにとっても感謝して食事をとっていくことが大切だと感じた。**

・日常の中で自分が生活しているのは、**46億年の中で考えると、ものすごく短い時間なんだなと感じました。今、この時間を楽しむことも大切だけど、もっと大きく見たときに自分がどう動くべきかなどをしっかりと考えていきたいなと思いました！**

・これからの未来まで生命を続けていくには、**今私たちにできる、地球にいいことをたくさんしていかなければならない**と思いました。

・ひよこが50日ほど食べられてしまう現実を知ったとき、**命をもっと大切に扱って、本当に食べ残しを無くしたい、減らしたい**と思った。

・今の社会は完璧を追求しすぎだなと思った。豚の餌やりで食べ物がこんなに無駄になっていたなんて、実際に見るととても悲しい気持ちになった。自然があることの素晴らしさを再認識する必要があると思う。SDGsの考えは広まっているけれど、**根本的な社会の常識を変えないと、「地球一個分の暮らし」は実現不可能ではないか**と感じた。

・自然の力と自然とエネルギーのおかげで人間が生き残ってきて生活できているんだと思ったら、今まで何気なく見ていた木や川などの**自然をもっと大切にしなければいけない**と思った。

・自給自足は自分1人では成し遂げられないとても大変なことだと感じました。竹を運ぶのも、お米を炊くのも、田植えも餌やりも**すべて1人ではできなく、みんなでやればできること**なので、時給自足は大変かもしれないけれど、今回の様々な体験で学んだことがたくさんあるので野菜を育てて家族で食べてみたり家でもやってみたいと感じました。

・自分たちは知らないところでフードロスがたくさんおこっているのをしり、**もっと自分たちは興味を持ち、このことについて知っていくべきだと考えた。**

・**いまの世の中お米の値段とか高くて買うのだって大変なのに、田植えとかしてお米ってこんなに作るのが大変なんだ**と思った。

・自分で色々やるっていうこと、**普段お母さんがご飯作ってくれたり、洗濯物は干してくれたり**していて感謝しないといけないんだなと思った。

・お昼ご飯に食べた、自然で作られたお米はとってもおいしくて、**戻ってきた後も少し恋しくなりました。**



オンライン授業、出張授業

実際にどろんこ村を訪れることが難しい場合は、
オンライン授業や出張授業での対応も可能です。

オンライン授業

どろんこ村と学校をオンラインで繋ぎ、畑や豚、農作業の実演などを見せながら授業を行います。「地球一個分の暮らし」の考え方も深く伝えることができます。児童生徒に問いかけを行いながらどろんこ村の様子を伝えることが可能です。

- ※ 授業一コマから対応可能。
- ※ 1クラスから全校での実施まで可能。



出張授業

どろんこ村から農家やインターン生が道具を持って学校に出向き、授業を行います。授業一コマの中で体験をすることができます。

- ※ 授業一コマから対応可能。
- ※ 1クラス単位での実施となります。
- ※ 対応可能地域に限りがあります。



体験可能なメニュー

- ・お茶碗一杯のお米
- ・鶏、ひよこのえさやり
- ・絵本『たべるたべるいのちをたべる』の読み聞かせ、絵本ノートを使用した授業



お問い合わせ

合同会社渥美どろんこ村 スタディツアー担当

メール：atsumi.doronkomura@gmail.com

電話：0531-37-0996

各種リンク



ホームページ

<https://www.doronkomura.com/>



Instagram

https://www.instagram.com/doronko_mura/



Youtube

<https://www.youtube.com/@doronko-mura/featured>

(どろんこ村の紹介動画をご覧ください)

アクセス

自動車

東名高速道路 音羽蒲郡ICから約1時間

公共交通機関

豊橋駅から豊橋鉄道渥美線で約35分→

豊鉄バス伊良湖本線で約20分→徒歩5分

